

「心の清い人」

詩篇
マタイによる福音書

第24篇 1節～6節
第5章 8節～10節

説教 岡村 恒牧師

「心の清い人たちは、さいわいである、彼らは神を見るであろう。」(8節)というみことばは、主イエスがお語りになった《山上の説教》の一節です。ここは「さいわい」について記されている部分です。このマタイによる福音書5章3節から10節までの「さいわいである」というみことばは、とても重要な言葉です。主イエス・キリストは飼う者のいない羊の様に、命に渴いている人々をご覧になり、この説教をなさいました。この人々が、みことばによって歩める様にと。主イエスのみことばは課題や条件ではありません。あなたは、神の子と呼ばれる様になると仰っているのです。

“天国は私たちのものです”と、言える者こそ、今、ここにいる私たちなのです。その「さいわい」が差し出されます。“私を見た者は父を見たのだ”、“天国はあなた方のものだ”と、神を信じて生きる者に約束して下さるのです。

「心が清い」という言葉を聞くと、私たちはまるで、悪い事を知らない幼子や、善人の事だと思いがちです。しかし、英語では“pure(純粋)”という言葉が使われています。心に混じり気が無い。心の中に余分なものが入る余地の無い、純粋なもの。と、いう事です。“潔い”という漢字も、“清い”という事を示します。

心が純粋な者は、「むなしい事に望みをかけない」(詩篇 24篇4節)のです。神ならざるものに、望みを置かないのです。主イエスに、本当に出会う為の条件は多くありません。〈救い主〉である事を知るだけで良いのです。それは、知識としてナザレのイエスを知るという事ではありません。主イエスは神のひとり子であり、誰でも、このお方に出会う事ができるのです。主イエス・キリストを神のひとり子、救い主と信じる事なのです。この思いで満たされる時、それ以外のものは入る余地はありません。聖霊が臨み、信仰を与えてくださり、聖なる者に変えて下さるからです。これを〈聖化〉と言いますが、混じり気の無い者に変えて下さるということです。これは真実で確実な約束です。

私たちの中に、繰り返し入って来る不信仰な思いを、主は追い出して下さいます。本当に純粋な者に造り変えて下さるのは、神ご自身に他なりません。私たちがこのようにして永遠の命を持つ者になる為に、神のひとり子、主イエスは地上に来てくださったのです。

「平和をつくり出す人たちは」、「神の子と呼ばれるであろう。」(9節)と、あります。これは、キリストの兄弟とされ、お互いが、主によって兄弟として結び合わされる平和の話です。信仰者が礼拝において神との平和を手にする時、自分の隣り人もまた安心して生きる事ができる様にと願い始めます。この事がやがて、世界の平和を願う思いに繋がります。神が大切にしている人を私たちも愛したいと願うからです。「平和をつくり出す人」は“peacemaker(ピースメーカー)”とも訳されます。羊を飼うまことの牧者との再会こそが本当の平和だという事を、主イエスはご存知だったのです。そして、私たちを神の御旨を行う者につくり変えてくださるのです。ここで、神との関係が回復するのです。主イエス・キリストが十字架上で血を流され、その苦しみを引き受け、死んで葬られたのは、私たちに神との平和を与える為でした。

「義のために迫害されてきた人たちは、さいわいである」(10節)と、記されていますが、私たちが神の義をかけがいのないものとして生きようとする時、迫害に出会います。日常生活の中に、神で無いものが現われたり、様々な戦いに直面します。これは、神を知る事になった証拠です。神のみことばに触れ、真実に生きようすると、義のために戦いが生じるのです。しかしこれは神の養いの時です。天国を手に入れている事の〈しるし〉です。主イエスを神の子、救い主と信じて歩む時、私たちの中に繰り返し葛藤が生じます。この葛藤こそが神の国を受け継ぐ〈しるし〉なのです。

最後に、ある人を紹介します。それは、主イエスの十字架の隣りにいた2人の罪人です。ひとりは主をあざけり、もうひとりは「主よ、…わたしを思い出してください」と言い、ただ主に全身全霊を委ねました。この罪人に主イエスは仰いました。「あなたはきょう、わたしと一緒にパラダイスにいる」(ルカによる福音書 23章 43節)と。極悪人の上に臨んだ主イエスの言葉は、約束です。力強い救いの宣言です。

これは、私たちが、まだ主の敵であった時になされた約束です。キリストは私たちの救いです。神を信じ、キリストを信じる者は、神を見、神の子と呼ばれ、天国を手にする者として歩むことが約束されているのです。

(記 説教要約奉仕者)